

MDT 通信

No.9
2009年5月29日



スワリー副部長



入管担当者(左:バンコク、中央:チェンライ県)



ヤニ一部長

プロジェクトが正式にスタートして初めてのワークショップを5月26日に開催しました。MDT通信1号3号と4号でご紹介した昨年12月から今年の1月にかけてバンコク、チェンライ、パヤオで行ったワークショップの総まとめとして今回のワークショップを実施しました。継続性を持たせるために今回の参加者は、基本的に前回いずれかのワークショップに参加された方に絞り、バンコクから8名、チェンライから5名、パヤオから6名、その他BATWCとJICA関係者20名、総勢39名の参加となりました。

今回のワークショップの主な目的は2つです：

1. 前回のワークショップで議論した課題点を分析し、MDT強化に必要な活動を導き出す。
2. 本プロジェクトの開始及びプロジェクト概要を主要関係者に理解してもらう。

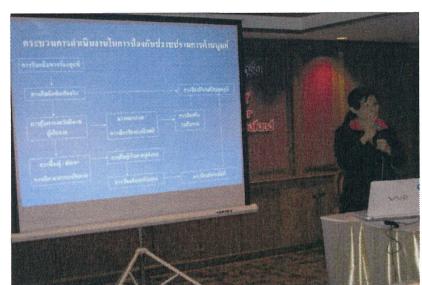
バンコク、パヤオとチェンライではMDTの構成メンバーも異なりますし、扱うケースも様々なのですが、課題点は3県ともほぼ共通していました。その中からMDT強化のプロジェクトとしてサポートしていくための主な活動は下記の通りです：

1. MDT実施ガイドライン作成
(実際にMDTとして活動する際に参照しながら使える実用的なもの)
2. ケースマネジャー育成

3. MDTメンバートレーニング
4. ケースレビュー(過去のケースの成功点・反省点を分析し、教訓とする)
5. 関係機関で成功事例を共有する(他県・地域間で)
6. 被害者復帰支援(例:被害者が集まって活動しているNGO支援、再度被害者にならないような啓発活動など)

参加者のほとんどがMDTとして被害者保護のプロセスに関わっている実務者だったため、活発な意見交換が行われ、プロジェクト活動に対しても有益な提言を得ることができました。

また参加者から、今回のように他県で活動しているMDTと意見交換をする機会は今までほとんどなかったので、このような場づくりがプロジェクト活動の一環として行われるのは大変有意義である、との声



ファシリテーターのワサナさん(CPCR)があがりました(古川)。